

賀来氏の起源と江戸初期までのまとめ

- ① 豊後の守に任ぜられた藤原頼輔（従三位、刑部卿）は、永暦元年(1160)子の頼経を目代として豊後に派遣した。
- ② 現在、賀来の地名のある場所の付近は、長寛(1163-)以前は阿南郷黒田里であった。
- ③ 赴任後まもなく頼経は、柚原八幡宮に参詣し、「よきこと来たるの社」（賀来社）という、名称を奉納した。
- ④ 以前から、平重盛の荘園であって、柚原八幡宮に年貢を納めていた地域を賀来荘と名付けた。
- ⑤ 長寛二年頃から豊後の国衙（役所）が発する文書に「賀来」なる地名があらわれる。

以上が「賀来」の起源

その2

- ⑥ 長寛二年頃、緒方惟興（緒方惟義の弟）が賀来荘の下司になり賀来を名乗る。（賀来秀三氏の説）
 - ⑦ 治承三年(1179)、惟興が惟義の命により豊前中村城に転出（豊前賀来の祖）。（賀来秀三氏の説）
 - ⑧ 治承三年(1179)、佐伯惟家が賀来荘の下司になり、治承四年に賀来を名乗る（豊後賀来の祖）。
 - ⑨ 養和元年(1181)、緒方惟義が藤原頼輔の命により、平家を討つべく、兵を挙げる。
 - ⑩ 寿永元年(1182)、源頼朝の平氏追討を受け、平氏の西下を防ぐため大畑城、宇留津城などを、緒方惟義が築城、同年、賀来惟興が大畑城主、賀来惟貞が犬丸城主、賀来惟成が塩田城主となる。ここの賀来はすべて、佐伯惟家の子の賀来惟康の子。（豊後国誌）
 - ⑪ 寿永二年、平氏が太宰府に籠もるも、緒方惟義がこれを討ち、瀬戸内海に追い返す。
- 以上が豊前の賀来氏（後に加来と改名した一族が多い）と豊後の賀来氏の系譜の違いの理由

その3

- ① 元暦元年(1184)、緒方惟義、佐伯惟康ら一ノ谷の合戦に加わる。（この佐伯惟康は、賀来惟康と思われる）
- ② 同年、緒方惟義、平家方の宇佐八幡宮を焼き討ちする。
- ③ 文治元年(1185)、平家壇ノ浦で滅亡。
- ④ 同年 緒方惟義、宇佐八幡宮焼き討ちの咎で朝廷から上野国沼田に配流されるが、まもなく赦免となり、豊後に帰国するも任官できず。
- ⑤ 同年、源義経が、頼朝の追討を受け、大物浦から九州へ渡海しようとするが大風のためできず。
- ⑥ 同年 頼朝が全国に守護地頭を置く、
- ⑦ 同年 宇都宮信房、豊前の仲津郡城井郷、築上郡伝法寺荘の地頭に任命される。
- ⑧ 文治三年、賀来惟康の子の惟頼が賀来荘を受け継ぐ。

⑨ 建久三年(1192) 頼朝、鎌倉に幕府を開く

その4

① 建久五年 宇都宮信房豊前に下る。

② 建久七年 仲原親能豊後の守護となる。

③ 建永元年(1206) 大友能直(大友氏初代) 豊後守護を譲り受ける。

④ 承応二年(1216) 賀来惟綱(惟頼の子) 改易される。

⑤ 承久三年(1221) 承久の変が起こり、大友親秀(大友氏二代)幕軍に従い京に攻め上る。

⑥ 貞応三年(1224) 賀来惟綱、賀来荘の地頭に任命される(承久の変での勲功と思われる)。

⑦ 嘉禄二年(1226) 惟綱、幕府より地頭としての乱行を戒められる。

⑧ 寛喜二年(1230) 太宰府から賀来社大神宝用途として、阿南郷が不輸の神領とされる。

⑨ 宝治二年(1248) 惟綱に幕府から新補地頭に準じ給田加徴があてられる。

⑩ 弘長二年(1262) 柚原宮に対する地頭の乱行に付き裁定が下される。

その5

① 文永八年(1271) 大友頼泰(三代) 豊後に下向、この時までに豊後大神氏の大部分は、大友氏に従属していた。。

② 弘安四年(1281) 第二次蒙古襲来、豊後賀来氏も大友氏に従って闘う。

③ 弘安六年 賀来又次郎入道念阿 幕府より肥後国永吉西村地頭を拝領

④ 弘安七年 惟綱(順阿)の子、惟永(願蓮)が、柚原宮大宮司平經妙から行状を訴えられる。

⑤ 弘安八年 大友頼泰 豊後岡田帳を幕府に注進。これに惟永の記載がある。

⑥ 正応二年(1289) 平經妙の書状に惟家から惟永までの経緯が記載されている。

⑦ 正安二年(1300) 柚原社権大宮司の書面に地頭賀来惟政とある。

⑧ 嘉元三年(1305) 賀来荘地頭 賀来越中守とある。

⑨ 同年 平丸名地頭 賀来長門守とある。

⑩ 正慶元年(1332) 順阿の子が、惟永(五郎法師願蓮) その子が二郎惟綱、舎弟が六郎惟家の記述がある。

⑪ 元弘三年(1333) 大友貞宗(六代) 足利高氏に従う。鎌倉幕府滅亡。

その6

① 建武元年(1334) 建武の中興

② 建武二年 大友貞載(大友氏惣領の名代) 朝廷軍に味方するも、足利高氏に内応。

③ 建武三年 高氏、京都にて大敗、九州に逃れる。

④ 同年 高氏、多々良が浜にて大勝、大友軍らを率いて東上、大友貞載これに従い京都にて討ち死に。

⑤ 同年 豊前の賀来三郎、宇治川の合戦により宇都宮大和守から恩賞を受ける。

⑥ 同年 高氏の留守中の官軍との玖珠、高国府の合戦にて、賀来掃部助入道が大神重能

から軍中状を受ける。

- ⑦ 同年 賀来辨阿闍梨及び同舎弟、玖珠の戦いにより、戸次朝重(大友重臣)から軍中状を受ける。
- ⑧ 同年 懐良親王が、後醍醐帝から征西大將軍に任命される
- ⑨ 歴応元年(1338) 足利尊氏 京都に幕府を開府する。
- ⑩ 同年 大友氏泰(七代)、尊氏に従い、大和、和泉に出陣。
- ⑪ 歴応二年 氏泰、豊後に帰国、少弐、菊池軍(南軍)と闘う。
- ⑫ 歴応三年 賀来弥五郎入道生阿、小田次郎から地頭職請け文を受ける。
- ⑬ 歴応四年 生阿、一色範氏(北軍)から軍功状を受ける。

その7

- ① 康永元年(1342) 懐良親王、薩摩に上陸
- ② 同年 賀来順阿、子の薬師女に賀来荘の支配を命じる。
- ③ 承和二年(1346) 賀来治部丞、尊氏下向の際の盟約(角違一揆盟約)を為す。
- ④ 正平三年(1348) 懐良親王、南軍を指揮し、一色軍に当たる。
- ⑤ 正平六年 大友氏時(八代) 尊氏と共に南軍に下る。
- ⑥ 文和元年(1352) 氏時、尊氏と共に南軍に叛く。
- ⑦ 文和二年 少弐氏(南軍) 一色氏(北軍)を太宰府浦城で破る。
- ⑧ 同年 賀来惟光、一色党として筑前針摺原で討死。
- ⑨ 正平十三年(1358) 懐良親王、豊前、豊後に入り、宇佐八幡宮に白鞘入剣を奉納。
- ⑩ 同年 足利尊氏死亡。
- ⑪ 同年 大友氏時、高崎城に籠もり南軍を撃退。
- ⑫ 応安四年(1371) 大内義弘、幕府の命により、九州探題を助ける。
- ⑬ 応安七年 大内義弘、豊前及び長門の守護に任命される。

その8

- ① 康歴二年(1375) 地頭賀来掃部助 前備前守から給人注文を受ける。
- ② 至徳元年(1384) 地頭賀来掃部助 地頭として柚原宮祭礼に勤事。
- ③ 明德三年(1392) 南北朝合一成る。
- ④ 応永五年(1398) 加来三郎(宇留津)、大友氏鑑が大友親世(十代)に乱を起こした際に氏鑑につく。
- ⑤ 応永十九年 賀来五郎四郎、大友氏鑑から小津留代官職を停止される。
- ⑥ 応永二十一年 賀来掃部入道 柚原八幡宮の文書を受け取る。
- ⑦ 応永二十三年 大友親著、親世から大友十一代を継ぐ。
- ⑧ 応永二十九年 賀来小次郎 知行給田を受ける。
- ⑨ 応永三十年 大友持直、親著から大友十二代を継ぎ、豊後、筑後守護となる。
- ⑩ 応永三十二年 大友孝親著(親著の長子)、持直に殺される(三角畠の乱)

その9

- ① 永享四年(1432) 幕府は 大友親綱を大友十三代とし、豊後守護職と認めるも、大友持直が反乱、家臣も両派に別れる。
- ② 同年 豊前にて、大友、大内の戦いが始まる。
- ③ 永享七年 大友持直、海部郡姫岳城に拠る。
- ④ 永享八年 賀来六郎五郎及び賀来次郎、大友親綱のもと、姫岳軍に加わる。
- ⑤ 同年 大内持世、姫岳城を落とす。
- ⑥ 永享十一年 大友親綱、持直の弟親隆に十四代の家督を譲る。
- ⑦ 文安元年(1444) 大友親隆、親綱の弟親繁に十五代の家督を譲る。豊後守護職は安堵。親繁の妻は親隆の長女。
- ⑧ 応仁元年(1467) 応仁の乱始まる。
- ⑨ 文明元年(1469) 大友親繁、東軍として、大内政弘と闘う。
- ⑩ 同年 賀来主税 大友政親のもとで、大内政弘と闘う。

その10

- ① 文明八年(1476) 大友政親十六代の家督を継ぎぐ。
- ② 文明九年 政親、豊後守護職を安堵。
- ③ 文明十六年 政親、子の義右に十七代を継がせる。
- ④ 延徳元年(1489) 賀来治綱次男神九郎、大友勝依(政親の弟)を介錯する。
- ⑤ 延徳二年 賀来采女佐(豊前)立て札について指示を受ける(大内からか)
- ⑥ 明応五年(1496) 大友義右死亡、(政親が毒殺か)
- ⑦ 同年 政親、義右の母方の大内氏にとらえられ、舟木地蔵院で生害さる。
- ⑧ 同年 賀来弾正忠、政親に従い殉死
- ⑨ 明応六年 大友親治、大友氏十八代を継ぐ。豊前守護職を入手。
- ⑩ 同年 賀来五郎左衛門尉治綱、柚原宮大宮司になる。

その11

- ① 明応十年(1501) 賀来藤兵衛、佐田次郎のもと大内軍に従い本庄城にて矢疵。
- ② 文亀元年(1501) 大友義長十九代を継ぎ、豊後、豊前、筑後守護職、筑前、肥前所領安堵
- ③ 同年 賀来惟秀、豊後から佐田に来たる。
- ④ 同年 賀来神兵衛、佐田にて大内方となり、妙見城を先登。
- ⑤ 永正二年(1505) 賀来神兵衛、佐田次郎から感状を受ける。
- ⑥ 永正四年 賀来治綱 大友親治書状に、柚原宮大宮司沙汰とある。
- ⑦ 永正五年 賀来治綱 大友義長から柚原社社頭祈念の礼を受ける。
- ⑧ 永正六年 賀来大蔵少輔惟秀、佐田荘境界論議に境界論議に大蔵代官として、賀来善右衛門尉、神左衛門尉と立ち会う。
- ⑨ 同年 大内義興、豊前守護職となる。
- ⑩ 永正八年 賀来備中守、大友親照謀反につき介錯する。

- ⑪ 永正九年 賀来大膳允、大友親治から知行預け状を貰う。
- ⑫ 同年 賀来左京亮、大友義長から社当留守番申しつけられる。
- ⑬ 同年 賀来大蔵惟秀 古川三郎左衛門に古川荘四方指案を示す。

その 1 2

- ① 永正十五年(1518) 大友義長死亡、義鑑二十代を継ぐ。
- ② 永正十七年 賀来右衛門大輔 大友義鑑から父親戦死により筑後内で四丁を預かる。
- ③ 大永元年(1521) 賀来加賀守、賀来左京進、賀来将監 大宮司隆重覚書にあり。
- ④ 同年及び同四年 賀来大蔵少輔 古川村境界論議に境界論争に大、賀来善右衛門尉、神左衛門尉と立ち会う。
- ⑤ 大永四年 賀来八郎大神鑑綱(治綱子) 加冠
- ⑥ 同年 賀来藤兵衛 古川景助から古川村境界案を受ける。
- ⑦ 享禄二年(1529) 賀来左衛門大夫 田北親から書状を受ける。
- ⑧ 享禄三年 賀来右衛門大夫 氏姓の争いで死亡
- ⑨ 同年 賀来民部少輔 柚原宮文書に賀来地頭と記述される。
- ⑩ 享禄四年 大宮司、正大宮司の記述が柚原宮文書にある。

その 1 3

- ① 享禄四年(1524) 柚原宮宮師から、賀来左京亮に柚原社旧記返還の要請がある。
- ② 同年 柚原社東光房栄元から、伊賀守田口氏に、賀来地頭、賀来五郎左衛門、香童子、賀来新四郎を非難する文書が送られる。
- ③ 同年 田尻中務丞に大友義鑑から、東植田村田尻の氏姓の争い関係の土地が返還される。
- ④ 同年 賀来右衛門大夫に、義鑑から安岐郷、武蔵郷(国東)が還付される。
- ⑤ 同年 賀来新九郎(治綱次男)に義鑑から、阿南荘内の一部が預けられる。
- ⑥ 天文元年(1532) 賀来新九郎が、義鑑に従い、宝珠山戦で被創。
- ⑦ 同年 賀来右衛門尉、民部丞、亮次郎、次郎三郎、藤七、又次郎が、義鑑から豊前国妙見岳攻めの感状を受ける、
- ⑧ 天文二年 賀来新九郎が義鑑から感状三枚を受ける。
- ⑨ 同年 賀来新左衛門尉が中村正資から、馳走礼状を受ける(豊前)。
- ⑩ 同年 賀来新左衛門尉が沼間綱中連署の軍忠状を受ける。
- ⑪ 天文三年 賀来新九郎が義鑑から感状を受ける。

その 1 4

- ① 天文三年(1534) 賀来藤三、右京進が手負いにて佐田隆居討死手負注文に記載される。
- ② 同年 賀来大膳允、采女允、佐田因幡守から礼状を受ける。
- ③ 同年 大友義鑑、大内義隆と速見郡勢場ヶ原にて闘う。
- ④ 同年 賀来新左衛門允 大友から忠節感謝状二通を貰う。
- ⑤ 同年 賀来次郎 佐田氏から父を悼む文を貰う

- ⑥ 同年 賀来次郎 大友義鑑から肥後木山城攻めの軍中状を貰う。
- ⑦ 同年 賀来新左衛門尉 杉興重から感状を貰う。
- ⑧ 同年 賀来五郎太郎 大友義鑑から跡地知行を小原弾正に預けられる。
- ⑨ 同年 賀来右京進、亮次郎、中務大丞(佐田か) から感状を貰う。
- ⑩ 同年 賀来藤三、佐田隆居討死手負注文に記載される。

以上は②を除き、佐田の賀来氏関連事項である。

その15

- ① 天文五年(1536) 賀来民部丞、大友義鑑及び重臣連判から筑後国内知行預け状を受ける。
- ② 同年 賀来社正大宮司紀伊守、大友義鑑から礼状を受ける。紀伊守は、賀来治綱弟惟重か
- ③ 同年 賀来右衛門大輔、大友義鑑から親父戦死後、筑後内を預けられる。賀来民部丞の子か。
- ④ 天文七年 賀来左京亮鑑重 柚原社造替覚書及び願文。
- ⑤ 同年 賀来左京亮鑑重、大友犬追物組手。
- ⑥ 天文八年 賀来社大宮司平鑑綱 賀来社の有識故実の伝授を受ける。賀来治綱の子。
- ⑦ 天文九年 賀来景縁神右衛門尉、永松若狭守から宇佐八幡に、宇佐米送りを依頼される。
- ⑧ 同年 賀来社大宮司鑑綱、大友義鑑から肥後国内預け状を受ける。
- ⑨ 同年 賀来中務丞 佐田朝景から宇佐八幡検査を命ぜられる。
- ⑩ 同年 賀来社惣地頭 大友義鑑から賀来社末社大破について出府命ぜられる。
- ⑪ 天文十年 賀来左京亮 大友義鑑から賀来社旧記の返還を求められる。
- ⑫ 同年 賀来紀伊守惟重 大友義鑑から唐人成敗の感状を受ける。
- ⑬ 天文十一年 賀来社正大宮司 大友義鑑から立花城属案について祝儀礼状を受ける。
- ⑭ 同年 賀来社大宮司 大友義鑑から山野雉法度を受ける。

その16

- ① 天文十九年(1550) 大友義鑑 二階崩れ騒動にて死亡
- ② 同年 大友義鎮 大友二十一代を継ぐ。
- ③ 同年 賀来八郎鑑綱 次男を八房丸称す。
- ④ 天文二十年 賀来八郎鑑綱 大友義鎮から肥後での知行預け状を受ける。
- ⑤ 同年 大友氏肥後国検地衆及び肥後文書に、賀来丹波守、賀来伊豆守、賀来治部少輔、賀来弾正忠の名有り。
- ⑥ 天文二十一年 賀来民部少輔 大友義鎮から肥後領地内渡状を受ける。
- ⑦ 同年 賀来紀伊守惟重 大友義鎮から宮師跡について相談を受ける。
- ⑧ 同年 賀来八房丸(鑑綱次男) 寒田右京介娘塩徳と婚姻、大友義鎮から柚原宮宮師跡を承認される。

- ⑨ 同年 賀来中務少輔 大友義鎮から肥後に差し遣わされる。
- ⑩ 同年 賀来新九郎(治綱次男) 大友義鎮から、鎮秀を授名される。
- ⑪ 同年 賀来八房 長重から袖原宮宮師交代に付き領内成敗を申し入れられる。

その17

- ① 天文二十四年(1555) 賀来周防守 大友義鎮から狩場奉行を命ぜられる。
- ② 弘治二年(1556) 臼杵鑑続、佐田弾正忠に対して、賀来紀伊守の成敗を申し入れる。
- ③ 同年 大友義鎮 賀来紀伊守跡地を、田北忠次郎に預ける。
- ④ 同年 大友義鎮 大内氏と争い宇佐、下毛両郡に侵攻。
- ⑤ 同年 加来孫兵衛惟康 塩田城にて大友氏に降伏。
- ⑥ 同年 大友義鎮 賀来太郎跡地を不明人に与える。
- ⑦ 同年 賀来次郎等 宇佐郡三十六人衆 大友義鎮のもとに着到。
- ⑧ 弘治三年 鑑績 賀来主計允を佐田弾正忠あて推薦。
- ⑨ 同年 大友義鎮 佐田弾正忠に感状を与える。
- ⑩ 同年 賀来九郎 大友義鎮から在陣見舞いを貰う。
- ⑪ 永禄元年(1558) 賀来周防守 大友義鎮から感状を貰う、
- ⑫ 永禄二年 大友義鎮 足利義輝から筑前、豊前守護職に補任される。

その18

- ① 永禄二年(1559) 賀来市助、中務丞、神三郎、備後守、善三郎(全員賀来姓)佐田隆居分捕注文に記載。
- ② 同年 賀来市助、賀来彦三郎、助六、大蔵丞 佐田隆居手負い注文に記載
- ③ 永禄三年 大宮司賀来氏(賀来地頭) 御老中から大友年頭行事記
- ④ 同年 賀来九郎 大友義鎮から在陣見舞いを貰う、
- ⑤ 永禄四年 大友義鎮 毛利氏を門司城に攻める、
- ⑥ 同年 毛利氏から佐田弾正忠あての文書に賀来和泉守叛義鑑とある。
- ⑦ 同年 賀来鎮綱(宮千代)大友義鑑から父掃部守鎮綱後賀来社大宮司職を宮千代に安堵される。
- ⑧ 同年 賀来松寿 佐田隆居から知行を宛て行われる。
- ⑨ 永禄五年 大友義鎮 臼杵丹生城を築城、宗麟と号す。
- ⑩ 永禄六年 加来刑部大輔惟定 豊後から豊前奈古岩丸に来たり在住する。

その19

- ① 永禄八年(1565) 賀来采女佐、弥右衛門尉 佐田隆居の手負い注文に記載。
- ② 永禄十二年 賀来宮内丞 大友宗麟から田原郡での軍功状を貰う。
- ③ 同年 賀来三郎右衛門尉 規矩郡の大友宗麟軍にて手負い。
- ④ 同年 賀来宮内、三郎右衛門、泉、田原親宏から軍功状。
- ⑤ 永禄十三年 賀来民部少輔について、宮師豪栄(八房)が宮師由来に記載。
- ⑥ 同年 賀来四郎 大友宗麟軍にて手負い。

- ⑦ 元龜二年 宮師豪栄 賀来社雑事注文に記載。
- ⑧ 同年 大宮司、宮師御坊あて、大友老臣連署にて、大神宝会について文書。
- ⑨ 同年 宮師豪栄 賀来社雑事注文を受ける。
- ⑩ 元龜四年 賀来孫五郎 鳥羽紹佐等から年貢米受取状を受ける。
- ⑪ 天正三年 宮師豪栄 賀来房洲入道あて賀来社着座次第。
- ⑫ 同年 賀来左衛門尉、兵部丞、和泉守、九郎、与一、藤次郎、又次郎に山上衆の飽田郡内知行目録に記載。

その20

- ① 天正六年(1578) 大友義統 袖原宮に太刀を奉納して、島津戦の戦勝を祈願。
- ② 同年 大友義統 大友氏二十二代を継ぐ。
- ③ 同年 大友軍、耳川にて島津勢に大敗。
- ④ 同年 賀来太郎 佐田鎮綱の分捕り注文に記載。
- ⑤ 同年 賀来大蔵丞惟秀 田原親賢から書状。
- ⑥ 天正七年 賀来孫兵衛惟康(宇留津城主) 大友氏から離反。
- ⑦ 同年 宇都宮鎮房 大友氏から離反。
- ⑧ 天正八年 賀来左衛門大夫、宮内少輔 大友宗麟から田北紹鉄の結束攪乱の書状を受ける。
- ⑨ 同年 大友宗麟 佐田弾正忠に宇佐郡中四十町を与える。
- ⑩ 同年 大友宗麟 賀来右衛門大夫に田北紹鉄の自害を命じる。
- ⑪ 同年 大友義統 賀来社大宮司に、賀来社造営を指示。
- ⑫ 同年 賀来次郎左衛門尉、采女佐 佐田弾正忠の宇佐郡植田表着到に記載
- ⑬ 同年 賀来与一、半次郎、清左衛門尉、主税、甚左衛門尉 下毛郡多布原村で城攻め

その21

- ① 天正十年(1582) 賀来兵右衛門鎮光、同子松寿丸(三七統久) 大友義鎮から鎮光所領を松寿丸に相続させる。
- ② 同年 加来安芸守統直 大畑城で島津氏と戦い勝利し、大友義統から感状を貰う。
- ③ 同年 賀来土佐守(豊後)、賀来越中守(豊前)が大友氏城主録に記載。
- ④ 天正十一年 賀来中務少輔、佐田弾正忠配下で、大友義統の指示により、安心院神楽要害に兵糧を入れる。
- ⑤ 同年 大宮司 大友義統から賀来社祭礼御礼を貰う。
- ⑥ 同年 大宮司 大友義統から社殿造営要心の指示を受ける
- ⑦ 同年 佐田弾正忠 神楽城落城
- ⑧ 天正十二年 大宮司 大友義統から賀来社祭礼御礼を貰う。
- ⑨ 同年 賀来左近将監 大友義統から文書を貰う。
- ⑩ 天正十三年 賀来兵部少輔 大友義統から陣中見舞いを貰う。
- ⑪ 同年 太閤秀吉 九州諸大名に太閤に従属するよう支社を派遣。

⑫ 天正十四年 大友宗麟 大阪にのぼり、秀吉に島津征伐を願い出る。秀吉九州征伐を決断。

その22

- ① 天正十四年(1586) 島津義久 豊後に来寇府中城占領、大友義統竜王城に移る。
- ② 同年 賀来鎮綱(大宮司) 大友義統から高崎城整備の感状を貰う。
- ③ 同年 宇留津城主加来孫兵衛久盛 黒田軍により落城。
- ④ 同年 賀来鎮綱 島津軍を武略により悩ます。
- ⑤ 同年 賀来主膳 大友義統の下で島津軍と戦う。
- ⑥ 天正十五年 島津軍 秀吉軍のため、豊後から退却。
- ⑦ 同年 秀吉 豊前馬岳城に入城。
- ⑧ 同年 島津義久 秀吉に降伏。
- ⑨ 同年 黒田長政 京都、仲津、築城、上毛、下毛、宇佐の六郡を封される。
- ⑩ 同年 賀来刑部丞 大友義統から賀来跡を許される。
- ⑪ 同年 賀来松寿丸 義統から鎮光跡を許される。

その23

- ① 天正十六年 宇都宮鎮房ら黒田氏に対し、一揆を起こす。
- ② 同年 大畑城主 加来統直 一揆に荷担挙兵。
- ③ 同年 大畑城 黒田氏によって落城、加来統直討ち死。
- ④ 同年 宇都宮鎮房 黒田氏に領地安堵と偽られ城井城を開城。
- ⑤ 同年 宇都宮鎮房 黒田氏から城井城を奪還。
- ⑥ 同年 黒田長政 城井城を攻めて大敗
- ⑦ 天正十七年 黒田長政和睦の上、宇都宮鎮房を中津城で謀殺。
- ⑧ 同年 加来左内元郡 鎮房とともに討たれる。加来刑部惟定の子。
- ⑨ 同年 加来藤兵衛尉惟元も宇都宮鎮房に従っていた。
- ⑩ 同年 賀来三七(松寿丸) 大友吉統から加冠状を貰う、旧名統久、大神神九郎と号す。
- ⑪ 同年 賀来兵部少輔 大友吉統から工事感状を受ける。

その24

- ① 天正十九年(1591) 賀来刑部大輔 参宮帳に記載あり。
- ② 文禄元年(1592) 秀吉 朝鮮出兵
- ③ 同年 賀来将監 大友氏家臣名簿に記載。
- ④ 同年 賀来中務少輔 大友義統高麗陣に供奉。戦死。
- ⑤ 文禄二年 賀来兵部少輔 朝鮮着到
- ⑥ 同年 大友吉統 小西軍を援軍せず。
- ⑦ 同年 大友吉統 豊後を召上げられ、毛利にお預けとなる。
- ⑧ 文禄三年 大友軍は、黒田軍に組み込まれ、賀来左京入道、賀来次郎等山口に着到。
- ⑨ 慶長三年(1598)年 大宮司、賀来中務少輔、兵部少輔、将監、市右衛門尉等山口に着

到。

⑩ 同年 秀吉没。

⑪ 同年 このころ、大宮司肥後をへて、長州萩に移る。

その25

① 慶長四年(1599) 大友吉統 江戸へ移される。

② 慶長五年 徳川家康 上杉征伐へ出陣。

③ 同年 賀来三七 会津表参陣を賀する。

④ 同年 石田三成挙兵 関ヶ原の戦い起こる。

⑤ 同年 大友吉統 西軍に与し、毛利の軍艦にて豊後に向かう。

⑥ 同年 大友吉統 黒田如水軍に敗れる。 石垣原の合戦

⑦ 同年 黒田長政 筑前に封ぜられる。

⑧ 元和三年(1617) 宮師豪栄(賀来八房) 賀来社願文案を記す。

⑨ 元和六年 賀来三七の子 賀来兵部、三七の事項及び賀来氏の由来を記す。

⑩ 同年 宮師豪政 賀来社由来、賀来地頭民部少輔、八房丸、豪栄の事項を記す。

⑪ 寛永二年(1625) 賀来治綱次男神九郎 賀来氏家伝、治綱、神九郎、民部少輔、式部大輔、賀来惟時等を記述。

⑫ 同十五年 佐田勘左衛門友房 山蔵賀来氏の来歴を記す。

⑬ 同十七年 賀来佐左衛門尉 賀来氏来歴覚えを記す。

⑭ 正徳五年(1716) 大神尚山 豊後岡田帳考策を表す。

以上

1 賀来氏関係年表

2016年1月

加来利一

西暦	元号	氏名等	氏名等1	関係者	場所	事柄	出典
300	崇神天皇	大田田根子命		崇神天皇	大和三輪	三輪山の祭詞を命ぜられる	古事記、日本書記
587	用命元年	三輪逆		物部守屋大連	小治田宮 宇佐鷹居社 小山田社	被害を受け死亡 応神八幡の成立、後、神宮皇后を加える	日本書紀
600	推古8年	大神比義				壬申の乱	八幡神信仰の研究
672	天武元年	天武天皇				壬申の乱の功績により賜 内小紫位	日本史年表
672	天武元年	三輪子首		天武天皇		豊前、豊後に分かれる 叙位従四位上	三輪叢書 大分県の歴史年表
684	天武12年	三輪豊島壳			豊国	豊後国分寺建立	三輪叢書 大分県の歴史
736	天平8年	聖武天皇			国分	由原宮（賀来社）は宇佐 八幡を賀来郷に勧請	大分県史料
746	天平18年	金亀和尚			賀来郷	宇佐宮より大菩薩の初衣 飛来	大分県史料09-75
827	天長4年	八幡大菩薩		右大臣夏野	賀来社		
830	天長7年	大江宇久国司			由原宮	由原宮神殿造成	大分県史料09-75
836	承和3年	三輪全雄				賜大神朝臣姓	三輪叢書
862	貞観4年	三輪良臣				賜大神朝臣姓	三輪叢書
862	貞観4年	三輪良臣		太宰府	太宰府	豊後介から昇任	豊日誌
886	仁和2年	三輪良臣				その子庶幾を豊後にとど める	豊後日誌
886	仁和2年	三輪良臣				豊後介に再任される	三輪叢書
892	寛平4年	大神庶幾				大野郡領となる	三輪叢書
892	寛平4年	大神諸任 (惟基)				大野郡擬少領となる	三輪叢書
912	延喜12年	平将門			関東	平将門の乱	日本史年表
939	天慶2年	藤原純友			瀬戸内海	純友の乱	日本史年表
939	天慶2年	大神諸任 (惟基)			佐伯	純友の次将となる	本朝世紀

940	天慶3年	大神諸任 (惟基)				佐伯	官軍に捕まるも大赦さる	本朝世紀
965	康保2年	仙照 (由原 宮師)			由原八幡宮	由原八幡宮最古の文書	大分県史料09-1	
971	天禄2年 4	佐伯 (目 代)		宮師僧仙照	由原八幡宮	由原宮の領所とする 創建 (天正年間奈古に移 る)	大分県史料09 大分県史料09-75	
998	長徳4年	由原宮			賀来荘		城井	
1076	承保3年	妙見神社			妙見神社		日本史年表	
1156	保元元年					保元の乱	日本史年表	
1159	平治元年					平治の乱	日本史年表	
1159/05	平治元年	紀氏	僧院清解		僧院清解	地頭紀氏に対して桑と畑 の免除を申請	由原八幡宮文書 1 9	
1159/05	平治元年	紀氏			由原社	精治料寄進	由原八幡宮文書 1 9	
1160/01	栄暦元年	藤原頼輔		子藤原頼経目 代となる	豊後	豊後守となる 新立仁王講殿 (地名賀来 の初見)	玉葉	
1164/09	長寛2年	僧院清護	権大宮司弁 官		賀来		由原八幡宮文書 2 2	
1166	永万2年	藤原頼輔	男頼経吉岐 守に任ず	子藤原頼経猶 豊後にとどま る	豊後	豊後守を辞す	玉葉	
1171	嘉応3年	由原八幡宮			由原八幡宮	豊後一宮と称す	大分県の歴史年表	
1172	承安2年	由原八幡宮	頼経仕事始 めの賀をな す	頼経仕事始め の賀をなす	由原八幡宮		由原八幡宮文書 2 6	
1172	承安2年	緒方惟興	緒方惟義	緒方惟義	由原社荘園	庄司となる？	賀来考	
1177/08	治承元年	左中弁藤原 朝臣	賀来社神官 住人等		賀来社	文賀来社初見	由原八幡宮文書 2 7	
1177/08	治承元年	大春日立並 下	賀来御荘神 官百姓所		賀来荘	賀来荘初見 豊前中村に移任、後賀来 と名乗る？	由原八幡宮文書 2 8	
1179	治承3年	緒方惟興	緒方惟義 (兄)		豊前中村		賀来秀三	
1179	治承3年	佐伯惟家		大宮司平経妙 申状案	賀来荘	賀来荘下司職に任命され る	由原八幡宮文書 47	

1180	治承4年	佐伯惟家				賀来荘	名を賀来と改める	柞原八幡宮文書47
1180/08	治承4年	源頼朝			伊豆	拳兵	叛平家で拳兵	大分県の歴史
1181	寿永元年	緒方惟義	藤原頼輔		大宰府	大宰府に抛る	行幸	大分県の歴史
1183/8	寿永2年	平氏			宇佐八幡	大宰府より追われる		大分県の歴史
1183	寿永2年	安徳天皇	宇佐公通	宇佐公通	大宰府			大分県の歴史
1183/10	寿永2年	平氏	緒方惟義	緒方惟義				大分県の歴史
1184/02	元暦元年	佐伯三郎維康	平氏	緒方惟義	一ノ谷	合戦に加わる	宇留津、大畑城等を築城	源平盛衰記巻36
1184	元暦元年	緒方惟義			豊前			豊後国誌、築城郡志
1184	元暦元年	賀来惟興	緒方惟義	賀来惟康の子	大畑城	大畑城主となる		豊後国誌
1184	元暦元年	賀来惟貞	緒方惟義	賀来惟康の子	犬丸城	犬丸城主となる		豊後国誌
1184	元暦元年	賀来惟成	緒方惟義	賀来惟康の子	塩田城	塩田主となる		豊後国誌
1184/7	元暦元年	緒方惟栄	宇佐八幡	宇佐八幡	宇佐	宇佐八幡宮を焼き討ち		大分県の歴史
1185/2	文治元年	緒方惟栄	源範頼	源範頼	豊後	豊後上陸		大分県の歴史
1185/3	文治元年	平氏			壇の浦	滅亡		大分県の歴史
1185	文治元年	緒方惟栄			上野国沼田	配流となる		大分県の歴史
1185/10	文治元年	緒方惟栄			上野国沼田	配流を許さる		大分県の歴史
1185	文治元年	源頼朝			全国	各地に守護、地頭を置く		日本史年表
1185	文治元年	宇都宮信房			豊前	豊前の地頭に任命		大分県の歴史
1185/11	文治元年	源義経	緒方惟栄	緒方惟栄	大物浦	大風のため遭難		大分県の歴史
1187	文治3年	賀来惟頼	大宮司平経 妙申状案	惟康の子	賀来荘	荘を受け継ぐ 年貢米を賀来荘と平丸が ら当てる		柞原八幡宮文書47
1188/11	文治4年	八幡宮柞原社	権介藤原朝臣他					柞原八幡宮文書29
1192	建久3年	源頼朝			鎌倉	幕府を開く		城井
1195	建久5年	宇都宮信房			豊前	地頭として下向、仲津郡 城井郷(京都郡犀川町)		
1196	建久7年	仲原親能			豊後	豊後の守護となる		両豊記
1197	建久8年				豊前国	豊前国凶田帳を上申		大分県の歴史年表
1206	建永元年	大友能直 (初代)			豊後	豊後守護を譲り受ける		大分県の歴史
1216	正応2年	賀来惟綱		惟頼の子	賀来荘	惟綱改易		賀来荘史料28

1284/03	弘安7年	賀来惟永法名願蓮	大宮司平経妙				賀来地頭惟永の行動の申状	柞原八幡宮文書47
1285/09	弘安8年	大友頼泰 賀来惟永願蓮	北条幕府	北条幕府	豊後		豊後国凶田帖を注進	大分県の歴史年表
1285/09	弘安8年	賀来惟永願蓮	豊後国大田文案		賀来荘 賀来荘二百町		豊後国凶田帳 地頭御家人賀来五郎法師 法名願蓮	大分県史料36-24 鎌倉遺文15700
1285/10	弘安8年	賀来惟永法名願蓮	佛名経講贊				佛名経講贊	柞原八幡宮文書66, 67
1287/01	正慶元年	賀来惟経	佛名経講贊				賀来願蓮の子惟経の記述	柞原八幡宮文書66, 67
1287/01	正慶元年	賀来惟経	佛名経講贊				賀来願蓮の舍弟惟家の記述	柞原八幡宮文書66, 67
1287/01	正慶元年	賀来惟家	佛名経講贊				惟綱地頭職任命とそれまでの経緯	柞原八幡宮文書47
1289/03	正応2年	大宮司経妙	平経妙		賀来荘		徳政令	柞原八幡宮文書47
1297	永仁5年	鎌倉幕府		地頭願蓮	鎌倉		地頭惟政の横領について	大分県の歴史
1300/04	正安2年	賀来惟政	権大宮司	鎮西御教書			記述	柞原八幡宮文書50
1305/02	嘉元3年	賀来長門守	柞原八幡宮		賀来荘地頭		納米	柞原八幡宮文書53
1305/02	嘉元3年	賀来小三郎	柞原八幡宮		平丸各地頭		納米	柞原八幡宮文書53
1310/12	延慶3年	願誓	奉行所				請文	豊後大野荘史料62
1322/08	元亨2年	賀来社大宮司	鎮西御教書		柞原八幡宮		賀来氏ではない	柞原八幡宮文書55
1324/01	元亨4年	賀来奮河	柞原八幡宮				神入帳に名有り	柞原八幡宮文書56
1327/08	嘉歴2年	地頭	柞原八幡宮	僧源清			地頭横領	柞原八幡宮文書57、58
1328/08	嘉歴3年	阿南莊地頭	柞原八幡宮	僧有範			地頭争論	柞原八幡宮文書
133201	正慶元年(北朝)	賀来地頭願蓮	柞原八幡宮				年中行事次第	柞原八幡宮文書66, 67
1332	正慶元年(北朝)	賀来小次郎順阿	佛名経講贊				順阿の子が願蓮、願蓮の子が惟永及び二郎惟経、舍弟が六郎惟家の記述	柞原八幡宮文書66, 67
1333	元弘3年	大友貞宗(6代)	足利高氏	足利高氏に味方	鎌倉		鎌倉幕府滅亡	大分県の歴史
1334	建武元年	後醍醐天皇					建武の中興	大分県の歴史

1334	建武元年	大友貞載	規矩高政を討つ	規矩高政を討つ	帆柱城	朝廷の命により討つ 守護代豊後高田、宇佐八幡関係	大分県の歴史
1335/09	建武2年	賀来五郎入道 大友貞載 (惣領の名代)	大友貞載				増補訂正大友史料5-1842
1335/11	建武2年		朝廷軍に味方	朝廷軍に味方	箱根	足利高氏を討つ	大分県の歴史
1335/11	建武2年	大友貞載	足利高氏に味方内応	足利高氏に味方内応	伊豆	官軍を討つ	大分県の歴史
1336/01	建武3年	大友貞載	結城親光	結城親光	京都	討ち死	大分県の歴史
1336/01	建武3年	足利尊氏	官軍	官軍	京都	官軍に敗退九州にのがれる	大分県の歴史
1336/03	建武3年	足利尊氏	菊池武敏と戦う	菊池武敏と戦う	多々良浜	尊氏軍が大勝、大友軍を率いて東上	大分県の歴史
1336	建武3年	賀来弁阿闍梨	大友貞順等と九州官軍に加わり	大友貞順等と九州官軍に加わり	玖珠城	大友惣領軍と戦うも落城	大分県の歴史
1336	建武3年	賀来三郎	三条真度、宇都宮大和守	三条真度、宇都宮大和守	宇治川	宇治川合戦の恩賞	大分県史料02-389築上郡
1336/06	建武3年	賀来掃部助入道	大神重能			玖珠一高国府の戦い 軍中状	大分県史料13-72
1336/07	建武3年	賀来辨阿闍梨	戸次朝重	賀来辨阿闍梨舎弟		玖珠の戦い 軍中状	編年大友史料399
1336/07	建武3年	賀来孫次郎	戸次朝重			玖珠の戦い 軍中状	編年大友史料399
1336/09	建武3年	懷良親王			京都	征西大將軍に任命	大分県の歴史
1337/05	建武4年	賀来孫五郎成阿	沙弥		植田		編年大友史料479
1337	建武4年	賀来弥五郎成阿	沙弥		植田		大分県史料25-287
1338	歴応元年	足利尊氏				幕府開府	大分県の歴史
1338	歴応元年	大友氏泰					大分県の歴史
1338	歴応元年	大友氏泰(7代)	足利尊氏	足利尊氏	大和、和泉	出陣	大分県の歴史
1339	暦応2年	大友氏泰	足利尊氏	足利尊氏	帰国	少弐、菊池軍と戦う	大分県の歴史

1339/07	暦応2年	賀来弥五郎 入道生阿	小田次郎	小田次郎	豊後国玖珠 郡	地頭職の件	大友資料517
1340/01	暦応3年	賀来弥五郎 入道生阿	僧有快	小田次郎	豊後国玖珠 郡	地頭職請文	大友資料518
1341/06	暦応4年	賀来弥五郎 入道生阿	一色範氏		豊後国玖珠 郡	軍功	編年大友史料519
1342	康永元年	懷良親王			薩摩	薩摩に上陸	大分県の歴史
1342/06	康永元年	賀来地頭順 阿女子薬師 女	沙弥、駿河 権守		賀来荘	賀来地頭順阿女子薬師女 に支配を命ず	柞原八幡宮文書83
1346	承和2年	大友貞範	足利尊氏 陣道、足利 尊氏下向の 際の誓約	陣道、足利尊 氏下向の際の 誓約		地頭職を宛て行う	編年大友史料746, 747
1346/05	承和2年	賀来治部丞 大神惟世				角違一揆盟約書	編年大友史料748
1348	正平3年	懷良親王			菊池	南軍を指揮一色軍に対抗	大分県の歴史
1349	正平4年	足利直冬				少式頼尚に頼り軍を起す	大分県の歴史
1350	正平5年	足利直義				南朝に降る	大分県の歴史
1351/10	正平6年	足利尊氏				南朝に降る	大分県の歴史
1351/10	正平6年	大友氏時 (8代)				南朝に降る	大分県の歴史
1352	文和元年	足利尊氏				南朝に背く	大分県の歴史
1352	文和元年	大友氏時				南軍から離れる	大分県の歴史
1352	文和元年	足利直冬				北軍に敗れる南朝に降る	大分県の歴史
1353	文和2年	一色氏			大宰府浦城	少式頼尚と戦い破れる	大分県の歴史
1353/02	文和2年	賀来惟光	法名光口	円成寺地輪	筑前針摺原	一色党として針摺原合戦 にて討ち死	増補編年大友史料7- 193、ぎ北の文化財
1356/03	建武3年	大友刑部氏 時	菊池と戦う		黒木城	黒木城の戦い	豊筑乱記
1358	正平13年	懷良親王			豊後国府	豊後国府に進入	大分県の歴史
1358/02	正平13年	懷良親王			宇佐八幡宮	白鞘入剣を奉納	大分県の歴史
1358/04	正平13年	足利尊氏			京都	死亡	大分県の歴史
1358/12	延文3年	大友氏時			高崎城	高崎城に籠り南軍を撃退	大分県の歴史
1361	正平16年	斯波氏経			高崎城	九州探題として高崎城に 入る	大分県の歴史

1371	応安4年	今川義範			高崎城	九州探題今川貞世の代理として高崎城に入る	大分県の歴史
1371	応安4年	大内義弘			豊前国、長門	幕府の命により九州探題を助ける	大分県の歴史
1374	応安7年	大内義弘				豊前、長門守護職に任じられる	大分県の歴史年表
1375	英和元年	大内義弘 地頭賀来掃部助				幕府の命により九州探題を助ける	大分県の歴史
1380/12	康暦2年	大友親世 部助	前備前守			給人注文	南北朝遺文5628
1383	弘和3年	大友親世 (10代)			豊後	所領の増加	大分県の歴史
1384/11	至徳元年	地頭賀来掃部助	前備前守		豊後 柚原八幡宮	賀来地頭柚原八幡宮祭礼を勤事	柚原八幡宮文書94
1392	明德3年				京都	南北朝合一	大分県の歴史
1395	応永2年	今川貞世				九州を去る	大分県の歴史
1398	応永5年	加来三郎 賀来五郎四郎	大友氏鑑	大友氏鑑	宇留津	大友氏鑑が大友親世に乱を起こした際氏鑑につく	築上郡史297
1412/12	応永19年	賀来五郎四郎	大友親著		小津留	小津留代官職を停止	柚原八幡宮文書104
1414/07	応永21年	賀来掃部入道	長弘			柚原宮神事について	柚原八幡宮文書106
1416	応永23年	大友親著 (11代)	大友親世	大友親世		家督を継ぎ豊後筑後守護職となる	大分県の歴史
1422/03	応永29年	賀来小次郎	幸栄			知行給田	柚原八幡宮文書108
1423	応永30年	大友持直 (12代)	大友親著	大友親著		家督を継ぎ豊後筑後守護職となる	大分県の歴史
1425	応永32年	大友孝親 (親著の長子)			三角島の乱	持直に殺される	大分県の歴史
1432	永享4年	大内、大友			豊前国	大内、大友の戦いが始まる	大分県の歴史年表

1432	永享4年	大友親綱 (13代)			豊後国	幕府大友持直反乱により親綱を大友当主とし豊後守護職とする、家臣も両派に分かれる。	大分県の歴史
1435	永享7年	大友持直 賀来六郎五郎			海部郡姫岳	姫岳城に拠る	大分県の歴史
1436/06	永享8年	大友親綱	大友親綱	大友親綱	姫嶽	大友親綱姫嶽着到軍に名あり	大分県史料31-305
1436/06	永享8年	賀来次郎 大内持世	大友親綱	大友親綱	海部郡姫岳	大友親綱、持直の弟新隆に家督を譲る	大分県史料31-305
1439	永享11年	大友親隆 (14代)				大友親綱、持直の弟新隆に家督を譲る	大分県の歴史
1444	文安元年	大友親繁 (15代)				大友親繁、親綱の弟新繁に家督を譲る、豊後の守護職安堵、親繁の妻は新隆の長女	大分県の歴史
1467	応仁元年	山名持豊	細川勝元	細川勝元	京都	応仁の乱	大分県の歴史
1469	文明1年	大友親繁	細川勝元	細川勝元		東軍として大内政弘と戦う	大分県の歴史年表
1469	文明1年	賀来主税	大友政親			東軍として大内政弘と戦う	増補編年大友史料33
1476	文明8年	大友政親 (16代)				大友政親家督を継ぐ	大分県の歴史
1477	文明9年	大友政親				豊後守護職を安堵	大分県の歴史
1484	文明16年	大友義右 (17代)				大友義右家督を継ぐ	大分県の歴史
1489	延徳元年	治綱次男神 九郎	大友勝依 (政親の弟)			大友勝依を介錯	増補編年大友史料33
1490	延徳2年	賀来采女佐			大内氏関係	立て札について指示を受ける	永弘文書1207
1492	明応2年	賀来五郎左衛門尉治綱	大友親治			1492-1495に賀来氏大宮司となる	増補編年大友史料13-357

1496/5	明応5年	大友義右				大友義右死亡、政親が毒殺か、	大分県の歴史 大分県史料04-1308 永弘文書1308 増補改訂編年大友史料13-35 肥後文書
1496	明応5年	大友政親 賀来弾正忠	大友政親		舟木地蔵院	政親生害、大内氏が関与 殉死	増補編年大友史料13-357
1496	明応5年	賀来五郎左衛門尉治綱 大友親治	大友親治			賀来社大宮司職	
1497	明応6年	大友親治 (18代)			豊後国	大友氏を継ぐ	大分県の歴史
1497	明応6年	大友親治 賀来藤兵衛尉				豊前守護職を入手	大分県の歴史
1501/02	明応10年	尉	大内義興	佐田次郎	佐田	本庄城にて矢疵 大友義長大友氏を継ぎ豊後守護職安堵、筑後、豊前守護職、筑前、肥前所領安堵 豊後賀来より来る	宇都宮文書
1501	文亀元年	大友義長 (19代)			豊後国		大分県の歴史
1501	文亀元年	賀来惟秀			佐田		佐田郷土史
1501	文亀元年	賀来神兵衛尉	大内方となる		佐田	大友氏の妙見城を先登	宇都宮佐田系図
1501	文亀元年	賀来神兵衛尉			佐田	感状	佐田文書113p218
1505/07	永正2年	尉	佐田次郎		佐田	親治書状に大宮司の沙汰とする	
1507/03	永正4年	賀来五郎左衛門尉治綱 賀来五郎左衛門尉治綱	大友親治		柚原社		柚原八幡宮文書181
1508/10	永正5年	賀来五郎左衛門尉治綱	大友義長	宮師御坊	柚原社	社頭祈念の礼	柞原八幡宮文書155
1509	永正6年	賀来大蔵少輔惟秀	善右衛門尉、神左衛門尉		佐田荘	境界論議大蔵代官として立ち会う	速見郡志p634
1509	永正6年	大内義興			豊前国	豊前国守護職となる	大分県の歴史
1511/06	永正8年	賀来備中守	大友親照			大友親照謀反介錯する	増補編年大友史料33
1512/06	永正9年	賀来大膳允	大友親治			知行預け状	大友文書録1-665
1512/11	永正9年	賀来左京亮	大友義長			社当留守番申しつけ	柞原八幡宮文書155

1512/12	永正9年	賀来大藏惟秀	古川三郎左衛門		古川	古川荘四方指案	速見郡志p635
1515	永正12年	大友義長 大友義鑑 (20代)			豊後	条規(治国の方針)を定める	大分県の歴史
1518	永正15年	賀来右衛門大輔 (20代)				大友義長死亡、義鑑大友氏を継ぐ	大分県の歴史
1520/09	永正17年	賀来加賀守大輔	大友義鑑		筑後	親父戦死により筑後国内四丁を預ける	大分県史料9-499
1521/12	大永元年	賀来左京進 将監	隆重			大宮司隆重覚え書き	柞原八幡宮文書155
1521/12	大永元年	賀来大藏少輔惟秀	善右衛門尉、神左衛門尉		古川村	境界争論	柞原八幡宮文書161
1524/02	大永4年	賀来大藏少輔惟秀	善右衛門尉、神左衛門尉		古川村	境界争論	山香郷土史
1524/04	大永4年	賀来八郎大神鑑綱			賀来	加冠	長州賀来文書
1524/05	大永4年	賀来藤兵衛	古河景助		古川村	古河景助案	宇都宮文書84
1529/09	享禄2年	賀来左衛門大夫	田北親員			書状	増補編年大友史料16-155
1530	享禄3年	賀来右衛門大夫	大友義鑑		賀来	賀来で騒動起こる賀来右衛門大夫死亡	大分県史料32-772
1530?	享禄3年	賀来民部少輔	宮師		柞原社	宮師由来(賀来地頭民部少輔とあり)	柞原八幡宮文書219
1531/01	享禄4年	大宮司(御宿所)	各坊		柞原社	助運等運署状	柞原八幡宮文書165
1531/03	享禄4年	正大宮司	津久見常清(社奉行)		柞原社	運物、武器などの管理を命ず	柞原八幡宮文書163
1531/05	享禄4年	宮師御坊	賀来左京亮		柞原社	柞原社日記返還	柞原八幡宮文書166
1531/05	享禄4年	賀来地頭	東光房栄元		伊賀守田口	賀来地頭、賀来五郎左衛門、香童子、賀来新四郎を非難	柞原八幡宮文書164

1531/09	享禄4年	田尻中務丞 賀来右衛門 大夫	大友義鑑		東植田村田 尻	氏姓の争いの領地を返還	増補編年大友史料15-397
1531/10	享禄4年	賀来神九郎 (治綱次 男)	大友義鑑			安岐郷、武蔵郷を還付	増補編年大友史料15-401
1531/11	享禄4年		大友義鑑			阿南荘内一部を預ける 阿南荘内一部を預ける通 知	柞原八幡宮文書補遺229
1531/12	享禄4年	賀来神九郎	丹後守他			宝珠山戦にて被創	増補編年大友史料15-405 増補編年大友史料11-p21
1532/10	天文元年	賀来神九郎	賀来右衛門 尉、民部 丞、亮次 郎、次郎三 郎、藤七、 又三郎	大友義鑑			
1532/11	天文元年	賀来善三郎		大友義鑑	佐田	豊前國妙見岳攻め感状	増補編年大友史料16-94
1533/02	天文2年	賀来神九郎	大友義鑑			感状	増補編年大友史料16-p63
1533/03	天文2年	賀来神九郎	大友義鑑			感状	増補編年大友史料16-140
1533/04	天文2年	賀来神九郎	大友義鑑			感状	増補編年大友史料16-p63
1533/04	天文2年	賀来新左衛 門尉	中山正資		豊前	馳走御札	増補編年大友史料16-143
1533/06	天文2年	賀来新左衛 門尉	沼間綱中連 署		豊前	軍忠状	増補編年大友史料16-144
1534/03	天文3年	賀来神九郎	大友義鑑			感状	大友家文書録2-808
1534/03	天文3年	賀来藤三、 右京進			佐田	佐田隆居討死手負注文	佐田文書172
1534/03	天文3年	賀来大膳允	興国	佐田因幡守	佐田	礼状	佐田文書
1534/03	天文3年	賀来采女允	興重	佐田因幡守	佐田	礼状	佐田文書142
1534/04	天文3年		大友義鑑	大内義隆	速見郡勢 場ヶ原	大内氏と戦う	
1534/06	天文3年	賀来新左衛 門尉	栗屋次郎丞 重吉		豊前	忠節感謝状	増補編年大友史料16-315
1534/06	天文3年	賀来新左衛 門尉	仁部刑部丞 隆綱		豊前	忠節感謝状	増補編年大友史料16-316

1534/06	天文3年	賀来次郎	長就他		佐田	父之死を悼む	増補編年大友史料16-354
1534/06	天文3年	賀来次郎 賀来新左衛門尉	大友義鑑		佐田	軍中状肥後木山城攻めか	増補編年大友史料16-p168
1534/07	天文3年	賀来五郎太郎	杉興重		豊前	感状 跡地知行を小原弾正に預けられる	増補編年大友史料16-365
1534/09	天文3年	賀来右京進、亮次郎	大友義鑑				増補編年大友史料16-385
1534/10	天文3年	賀来右京進、亮次郎	中務大丞		佐田	感状 佐田隆居討死手負注文	佐田文書
1534/10	天文3年	賀来藤三			佐田	土佐にて豊後帰国の際 は、臼杵庄名字の地を寄進すると約束	大分県史料09-166
1535/04	天文4年	源鑑綱			賀来社	筑後国内知行預け状	増補編年大友史料17-13
1536/7	天文5年	賀来民部丞	大友義鑑		賀来		
1536/7	天文5年	賀来民部丞	大友重臣連判			筑後国内知行預け状通知	大友文書録888
1536/7	天文5年	賀来社正大宮司紀伊守(惟重?)	大友義鑑		賀来社	礼状	増補編年大友史料18-479
1536/09	天文5年	賀来右衛門大輔				親父戦死筑後後を預けられる	賀来荘史料78
1538/01	天文7年	賀来左京亮	大友義鑑		賀来社	柚原宮造替覚書	柚原八幡宮文書169
1538/03	天文7年	賀来左京亮鑑重			賀来社	柚原宮願文	増補編年大友史料17-137
1538/03	天文7年	賀来左京亮鑑重				犬追物手組事	増補編年大友史料17-235
1539/12	天文8年	賀来社大宮司平鑑綱			賀来社	有識故実を伝授	増補編年大友史料17-287
1540/01	天文9年	賀来景縁神右衛門尉	永松若狭守藤広		宇佐八幡	宇佐米送り状	大分県史料07-127
1540/06	天文9年	賀来社大宮司鑑綱	大友義鑑			肥後国の預け状	長州賀来文書
1540/07	天文9年	賀来中務丞	佐田朝景		佐田	宇佐八幡検査	増補編年大友史料17-287

1540/11	天文9年	賀来社惣地頭	大友義鑑			賀来社	末社大破について出府せしむ	大分県史料9-294
1541/05	天文10年	賀来左京亮 賀来紀伊守 (惟重)	大友義鑑			賀来社	賀来社旧記返還專要	増補編年大友史料18-474
1541/12	天文10年		大友義鑑				唐人成敗感状 立花城属案中祝儀腹巻の 礼承	増補編年大友史料18-531
1542/06	天文11年	正大宮司	大友義鑑			賀来社	山野雉法度	増補編年大友史料18-479
1542/08	天文11年	大宮司	大友義鑑				大友二階崩騷動	大分県史料25-179
1550/02	天文19年	大友義鑑						大分県史料34-2437
1550	天文19年	賀来八郎 (鑑綱)	宮師				次男八房丸と称す	柚原八幡宮文書219
1551/06	天文20年	賀来八郎 (鑑綱)	大友義鎮				肥後での知行預け状	増補編年大友史料19-181
1550/06	天文20年	大友氏肥後 国検地衆	大友義鎮				御判遵守	賀来荘史料78
1551/12	天文20年	加来丹波 守、加来伊 豆守、加来 治部少輔、 加来弾正忠 賀来民部少 輔	小原惟元				肥後	熊本市史中世 p 5 4 5
1552/03	天文21年	賀来民部少 輔	大友義鎮				肥後領地打渡状	増補編年大友史料19-239
1552/03	天文21年	賀来紀伊守 (惟重)	大友義鎮				宮師跡につき相談	増補編年大友史料4-244
1552/05	天文21年	八房丸 賀来中務少 輔	大友義鎮	寒田右京介娘 塩徳と婚姻 田尻掃部介他 宛			柚原宮師跡を承認	増補編年大友史料4-243
1552/05	天文21年		大友義鎮				肥後差し遣わし	増補編年大友史料19-258
1552/08	天文21年	賀来新九郎	大友義鎮				大友義鎮授名書鎮秀	増補編年大友史料19- 280.281
1552/09	天文21年	大宮司	志賀親守				遷宮の際の礼	増補編年大友史料19-291
1552/09	天文21年	賀来八房	長重				柚原宮師交代につき領内 成敗申し入れ	増補編年大友史料19-287

1552/09	天文21年	宮師	鑑満、鑑泰				成敗申し入れ	増補編年大友史料19-288
1552	天文21年	佐田氏					佐田氏の出自の記録	増補編年大友史料19-159
1555/02	天文24年	賀来周防守	大友義鎮				狩場待奉行に任命	増補編年大友史料20-7
1556/05	弘治2年	賀来紀伊守	臼杵鑑統	佐田弾正忠	佐田		佐田弾正忠宛賀来紀伊守等成敗申し入れ	増補編年大友史料20-96
1556/05	弘治2年	賀来紀伊守 加来孫兵衛 惟康	大友義鎮				紀伊守跡を没収、田北忠次郎に預ける	増補編年大友史料2-1417
1556	弘治2年	加来耆岐守	大友義鎮	大友義鎮	塩田の城		大友の侵攻により降伏	築上郡史318
1556	弘治2年	賀来太田	大友義鎮	大友義鎮	下毛郡		大友氏大内氏と争い宇佐下毛両郡に侵攻	築上郡史316
1556/08	弘治2年	賀来太田	大友義鎮				賀来太田跡を不明人に寄付	大分県史料29-232
1556/11	弘治2年	賀来紀伊守	大友義鎮	田北忠次郎			賀来紀伊守跡地を田北忠次郎に預ける	増補編年大友史料20-154
1556	弘治2年	賀来次郎	大友義鎮				宇佐郡三十六人衆着到	増補編年大友史料20-106
1557/03	弘治3年	賀来主計允	鑑續	佐田弾正忠宛			主計允を推薦	宇都宮文書45
1557/06	弘治3年	賀来中務丞	大友義鎮	佐田弾正忠宛	佐田		感状	田北文書13
1557/07	弘治3年	賀来九郎	大友義鎮		佐田		在陣見舞	増補編年大友史料20-247
1558/02	永禄元年	賀来周防守	大友義鎮				感状	田北文書13
1559	永禄2年	賀来市助 (21代)	将軍義輝	将軍義輝	筑前豊前		筑前豊前守護職補任	大分県の歴史年表
1559/08	永禄2年	中務丞、備後三郎、善三郎			佐田		隆居分捕注文	増補編年大友史料20-438
1559/08	永禄2年	賀来市助	佐田隆居		佐田		隆居手負い注文	増補編年大友史料20-438
1559/10	永禄2年	賀来彦三郎、助六、大蔵丞	佐田隆居		佐田		隆居手負い注文	増補編年大友史料20-474

1560/5	永禄3年	織田信長、 今川義元 大宮司賀来			桶狭間の戦い	
1560/01	永禄3年	氏 賀来九郎	御老中 大友義鎮	賀来社	賀来社地頭宛 在陣見舞い	大友年中行事記 大分県史料25-185
1560/07	永禄3年	大友義鎮	毛利氏	豊前門司	門司城を攻める	大分県の歴史年表
1561	永禄4年	賀来和泉守 賀来鎮綱 (宮千代)	毛利氏	佐田弾正忠宛	叛義鎮とある 父掃部頭鑑綱跡賀来社大 宮司職宮千代に安堵 知行宛行	増補編年大友史料21-84 柚原八幡宮文書185 佐田文書
1561/03	永禄4年	賀来和泉守 賀来鎮綱 (宮千代)	毛利氏	豊前	宗麟と号す 豊後より豊前奈古岩丸に 来たり城主となる。	大分県の歴史年表 葛城神社御縁
1561	永禄4年	賀来松寿	大友義鎮 佐田隆居	臼杵丹生城 築城	隆居手負い注文	増補編年大友史料22-451
1562	永禄5年	大友義鎮 加来刑部大 輔惟定		葛城神社	手負い	増補編年大友史料22-220
1563	永禄6年	賀来采女 佐、弥右衛 門尉	佐田隆居	佐田		
1565/08	永禄8年	賀来宮内丞 賀来三郎右 衛門尉	大友宗麟	田原郡		
1569/08	永禄12年	賀来三郎右 衛門尉	大友宗麟	規矩郡		
1569/12	永禄12年	加来宮内、 三郎右衛 門、泉 賀来民部少 輔	田原親宏 宮師豪栄(八 房)		軍功	増補編年大友史料62
1570	永禄13年	賀来四郎 宮師豪栄	大友宗麟	賀来社	宮師由来 手負い	柚原八幡宮文書219 増補編年大友史料23-65
1571/05	元龜2年	賀来社大宮 司、宮師御 房	宮師豪栄	賀来社	雑事注文	柚原八幡宮文書190
1571/09	元龜2年	宮師豪栄	大友氏老臣 連署	賀来社	大神宝会について	増補編年大友史料36-164 柚原八幡宮文書190
1572/10	元龜3年	大宮司、宮 師御坊	宮師豪栄	賀来社	雑事注文	
1572/03	元龜3年	大宮司、宮 師御坊	老臣連署	賀来社	大神宝会について	増補編年大友史料36-164

1573/12	元龜4年	賀来孫五郎	鳥羽紹佐等				年貢米請取り状	増補編年大友史料23-232
1575/03	天正3年	宮師豪采 賀来左衛門 尉、兵部 丞、和泉 守、九郎、 与一、藤次 郎、又次郎		賀来房洲入道	賀来社	着座次第	増補編年大友史料23-316	
1575	天正3年		山上衆		飽田郡内	知行目録	熊本県中世史料2p18p23	
1578/03	天正6年	賀来社	大友義統		賀来社	立願太刀奉納	増補編年大友史料24-14	
1578/11	天正6年	大友義統 (92代)	土持氏	土持氏	日向	日州合戦、耳川の戦い	大分県史料33解題	
1578/04	天正6年	賀来太郎 賀来大蔵丞	佐田鎮綱			佐田鎮綱分捕り注文	佐田文書262	
1578/06	天正6年	惟秀	田原親賢			田原書状	佐田文書262	
1579/01	天正7年	大友義統			豊後臼杵	宗麟から家督を譲られる	両豊記	
1579	天正7年	加来孫兵衛 惟康	大友氏	大友氏	宇留津城	大友氏から離反	両豊記	
1579	天正7年	宇都宮鎮房 賀来左衛門 大夫、宮内 少輔	大友氏	大友氏	城井城	大友氏から離反		
1580/03	天正8年		大友宗麟	田北紹鉄		結束攪乱の書状	増補編年大友史料別巻	
1580/04	天正8年	佐田弾正忠 賀来右衛門 大夫	大友宗麟			宇佐郡中40町地与える	佐田文書北九州戦国史 927	
1580/03	天正8年	賀来社大宮 司	大友宗麟			田北紹鉄の自害を命ずる		
1580/04	天正8年	賀来次郎左 衛門尉、采 女佐	大友義統		賀来社	賀来社造営指示	増補編年大友史料25-79	
1580/06	天正8年		佐田弾正忠 鎮綱		宇佐郡植田 表	着到	佐田文書	

1580	天正8年	賀来与一、清半次郎、左衛門尉、甚左衛門尉、左衛門尉			下毛郡多布原村	城攻め	増補編年大友史料25-37
1582/02	天正10年	賀来兵右衛門尉鎮光、子松寿丸(三七統久)	大友義統			賀来兵右衛門尉鎮光の所領を、子松寿丸(三七)に相続させる	賀来文書1-3東大史料編纂所所蔵
1582	天正10年	加来安芸守統直	野中重兼	野中重兼	大畑城	島津氏と戦い勝利する	両豊記
1582	天正10年	加来安芸守統直	大友義統	大友義統	大畑城	感状を受ける	両豊記
1582	天正10年	賀来土佐守(豊後)、賀来越中守(豊前)	大友			大友家臣城主姓氏録にあり	増補編年大友史料15-370
1582/06	天正10年	織田信長	明智光秀	明智光秀	本能寺	本能寺の変	
1583/01	天正11年	賀来中務少輔	大友義統	佐田弾正忠		安心院神楽要害兵糧	佐田文書297
1583/02	天正11年	大宮司	大友義統		賀来社	祭礼御札	大分県史料25-187
1583/03	天正11年	大宮司	大友義統		賀来社	社殿造営要心	大分県史料25-186
1583/06	天正11年	佐田弾正忠	大友府蘭	安心院千代松		神楽岳落城	佐田文書北九州戦国史1063
1583/07	天正11年	佐田弾正忠	大友府蘭	安心院興生		神楽岳落城	佐田文書北九州戦国史1064
1583/11	天正11年	大宮司	大友義統		賀来社	祭礼御札	県史料25-178
1584/02	天正12年	大宮司	大友義統		賀来社	祭礼御札	柚原八幡宮文書205
1584/10	天正12年	賀来左近将監か	大友義統			文書	柚原八幡宮文書206
1585/10	天正13年	賀来兵部少輔	大友義統			在陣見舞い	増補編年大友史料24-114
1585	天正13年	豊臣秀吉	大友義統		大阪城	秀吉関白になる	

1585/12	天正13年	豊臣秀吉	九州諸大名	九州諸大名	大阪城	秀吉に従うべしとの使者派遣	両豊記
1586/2	天正14年	豊臣秀吉	大友宗麟	大友宗麟	九州	大友宗麟上京しての願により九州島津征伐	両豊記
1586/10	天正14年	島津義久 賀来鎮綱 (大宮司)	大友義統	大友義統	豊後府中城	島津府中城占領、義統竜王城に移る	両豊記
1586/11	天正14年	加来孫兵衛 久盛	大友義統		高崎城 宇留津城(椎田町)	高崎城整備の感状 11月7日黒田軍により落城	増補編年大友史料27-322 城井
1586/11	天正14年	賀来鎮綱 (大宮司)	秀吉	秀吉		島津を武略により悩ます	増補編年大友史料27-359
1586/12	天正14年	賀来主膳	大友義統			島津攻め	豊後全史
1587/01	天正15年	島津義久	大友義統	秀吉	豊後	島津豊後より引き退く	両豊記
1587/02	天正15年	松寿丸	大友義統			父鎮光の跡領承	賀来文書1-3
1587/03	天正15年	豊臣秀吉			豊前馬岳城	入城	両豊記
1587/05	天正15年	島津義久	秀吉	秀吉	大平寺	降伏	両豊記
1587/06	天正15年	黒田孝高	秀吉	秀吉		京都、仲津、築城、上毛、下毛、宇佐の6郡を封ず。	城井
1587/08	天正15年	賀来刑部丞	大友義統		植田庄	賀来跡坪付宛先不明	柚原八幡宮文書209
1587/09	天正15年	松寿丸	大友義統			父鎮光の跡領承	賀来文書1-4
1588/01	天正16年	宇都宮鎮房	黒田官兵衛	黒田官兵衛	城井城	一揆拳兵	
1588/01	天正16年	加来統直			大畑城(中津市加来)	宇都宮鎮房拳兵の際拳兵	城井
1588/03	天正16年	加来統直			大畑城(加来城) 主	中津市加来、黒田勢により討ち取られる。領地安堵といつわられ開城	黒田家譜
1588/06	天正16年	宇都宮鎮房			城井城	城井城を攻め入城	両豊記
1588/11	天正16年	宇都宮鎮房			城井城	城井城を攻め大敗	
1588/11	天正16年	黒田長政			城井城		増補編年大友史料28-115, 116
1589/04	天正17年	賀来三七統久	大友吉統			加冠状(松寿丸)	

1589/04	天正17年	宇都宮鎮房	黒田長政、孝高	黒田長政、孝高	中津城(中津市)	宇都宮鎮房中津城にて謀殺さる。	城井
1589/04	天正17年	加来左内元郡	中津市二の丁城井神社内	中津市二の丁城井神社内	扇城神社	宇都宮鎮房とともに黒田長政に討たれる。30才	城井
1589/04	天正17年	加来藤兵衛尉惟元	宇都宮鎮房	宇都宮鎮房		宇都宮遺臣	築上郡志
1589/04	天正17年	加来刑部(惟定?)	加来左内の父	加来左内の父			城井
1589/04	天正17年	賀来統久	大友吉統			吉統授統字家臣賀来三七、旧名統久、有書統久幼名九郎	増補訂正編年大友史料28-115,116
1589/07	天正17年	賀来兵部少輔	大友吉統			工事感状	増補編年大友史料28-147
1590	天正18年	黒田孝高			豊前	豊前を平定	大分県の歴史年表
1591/04	天正19年	賀来刑部大輔				参宮帳	大分県史料26-369
1592	文禄元年	豊臣秀吉			朝鮮	朝鮮出兵	増補編年大友史料28-387
1592/03	文禄元年	賀来将監			植田	大友氏家臣名簿	増補編年大友史料28-384
1592	文禄元年	賀来中務少輔(寒田)	大友義統	大友義統	朝鮮	高麗陣義統公供奉	大分県史料33-2247
1592	文禄元年	賀来中務少輔			朝鮮	戦死	増補編年大友史料28-384
1593/05	文禄2年	賀来兵部少輔			朝鮮	着到衆	増補編年大友史料28-383
1593	文禄2年	大友吉統(義統改め)	小西, 黒田	小西, 黒田	朝鮮	小西軍が明軍の平壤攻撃を受けるも援軍せず。豊後を召上げられ毛利にお預けとなり, 山口で幽閉される。	大分県史料34-解題
1593	文禄2年	大友吉統	秀吉	秀吉	山口		大分県史料34-解題
1594/06	文禄3年	賀来左京入道、次郎			山口	着到衆	増補編年大友史料28-446

1598/10	慶長3年	大宮司、賀来中務少輔、兵部少輔、将監、市右衛門尉			山口	着到衆	増補編年大友史料28-275
1598	慶長3年	豊臣秀吉				秀吉死亡	
1599	慶長4年	大友吉統				幽閉を解かれ江戸へ移る	大分県史料34-解題
1600/06	慶長5年	賀来三七	大友義統	大友義統		会津表参陣を賀す。	大分県史料34-2361
1600	慶長5年	徳川家康				上杉征伐へ出發	
1600	慶長5年	徳川家康	石田三成	石田三成	関ヶ原	関ヶ原の戦い	
1600	慶長5年	大友吉統	毛利輝元	毛利輝元		西軍に与して毛利の軍艦にて豊後に向かう	大分県史料34-解題
1600	慶長5年	大友吉統				石垣原の合戦で敗れ、吉弘統幸ら戦死	大分県史料34-解題
1600	慶長5年	黒田長政				筑前52萬石に封ぜられる	城井
1600	慶長5年	宮師豪栄(賀来八房)					
1617/01	元和3年	賀来三七の房)			賀来社	賀来社願文案	柚原八幡宮文書215
1620	元和6年	賀来三七の子				賀来兵部、三七の事項、賀来家の歴史を記述	大分県史料34-2361
1620	元和6年	宮師豪政			賀来社	宮師由来、賀来地頭民部少輔、八房丸、豪栄を記述	柚原八幡宮文書219
1625	寛永2年	賀来氏	治綱の次男 神九郎			賀来氏家伝、治綱、神九郎、民部少輔、式部大輔、賀来惟時などを記述	肥後古記収攬5-6
1638	寛永15年	佐田勘左衛門友房				山蔵賀来氏来歴あり	佐田系図
1640	寛永17年?	賀来佐左衛門尉				賀来氏来歴覚え	大友家文書録4-2361-1
1716	正徳5年	大神尚山				豊後凶田帳孝策	鎌倉遺文
1744	延享元年	佐田氏				佐田氏系図	増補編年大友史料33

注)賀来地頭か

注)事件か